

編集部便り



国語編集部では、教科書の単元（教材）に即した「具体的な評価『基準』の例（仮称）の作成を進めております。どなたが評価されても、ほぼ同じ結果が得られるためには、できる限り客観的、具体的であること、その単元（教材）の特性に即していることが重要であると考え、それはどのような示し方をすればいいのか、春から何人かの先生方で、研究していただいているものです。本当に難しいことだと、会議のたびに感じております。あくまで参考ではございますが、年内にホームページ「光村チャンネル」でご提供できるよう作業を進めています。

広報課便り



阪田先生のお話に、伊沢修二という人が出てきましたが、ふだん何気なく歌っている童謡にも壮大なドラマがあるんですね。

特集は、「総合単元」を取り上げました。三年「標識と言葉」、四年「伝えよう、わたしたちの心」の試みをご執筆いただきました。すべての学年を取り上げることはできませんでしたが、総合単元を扱うにあたっての二つのヒントとしていただければ幸いです。評価では、今話題のポートフォリオを使った評価についてご執筆くださいました。ポートフォリオによる適切な評価を行うには、子どもの十分な表現力が不可欠です。池上先生も、常に表現力を高める指導を心がけていらっしゃるとのことでした。ご参考になれば幸いです。次回特集は「自分で選んで」です。

秋たけなわ、各地で研究会などが開かれています。以前「国語教育相談室」で取り上げていました研究会情報は、光村ホームページ「光村チャンネル」▼全国研究会情報」で検索できるようになっています。「ご利用ください」。

光村チャンネル



光村ホームページ「光村チャンネル」では、教材の学習時期にあわせて、さまざまなコンテンツを掲載しています。ぜひ、ご利用いただきたいと思います。

「シーズン・メッセージ 秋号」では、小学校国語教科書（五年下）掲載の教材文「一秒が一年をこわす」の筆者伊藤和明さんと、「ホタルのすむ水辺」の筆者嘉田由紀子さんの対談を掲載中です。教材を執筆された先生方と「国語と環境学習」について考えてみてはいかがでしょうか。なお、掲載中の対談の続きは、「光村メールマガジン」（無料）上で紹介しています。「光村チャンネル」上に、バックナンバーのページもありますので、興味をお持ちの方は、こちらもご覧ください。「光村メールマガジン」では、対談のほか、教育に関するさまざまな情報を紹介しています。登録は、「光村チャンネル」からどうぞ。

「大人のためのリンク集」「子どものためのリンク集」では、参考となるホームページを、教材ごとに紹介しています。授業を進めるうえで、お役立っていただきたいと思えます。授業を進めるうえで、定期的更新していますので、ぜひ、ご覧ください。

なお、十一月一日より、新コーナー「学びについて語ろう」がスタートしました。新学習指導要領が施行され、自ら学び自ら考える力を育てることが求められる一方で、「学力低下」が叫ばれています。これからの社会を担う子どもたちが主体的、創造的に生きていくために、身につけたい「学び」の力とは何なのでしょうか。第一回は、「学び」について鋭い提言を続ける青山学院大学教授の佐伯胖さんと、子どものあそび環境をデザインする東京工業大学教授の仙田満さんとの対談です。こちらもあわせてご覧ください。

光村チャンネル <http://www.mitsumura-tosho.co.jp>